F2-37

# 大学と地域コミュニティ形成における大学内の交流空間に関する研究

**A study on the interaction space in the university and local community formation**

○神田侑伎乃[1]，　山﨑晋[2]
Yukino Kanda[1], Shin Yamazaki[2]

Abstract: The purpose of this study is to analyze the characteristics of the community and the community by spatially analyzing how the community is open to the community, focusing on community facilities within the university and facilities that are open to the public. The purpose is to explore the ideal way of interaction space in formation. University facilities that are open to the public are mainly divided into open type and closed type. Furthermore, among closed types, there are facilities installed near the entrance of the campus and facilities installed away from the entrance. It became clear that the closed type with facilities near the entrance of the campus is mostly in the city area, and the closed type with facilities near the entrance is mostly in the urbanization control area.

## １．研究の背景と目的

近年，少子化等の社会的問題により大学教育のあり方が見直され，大学は現在，教育・研究の活動だけではなく，社会貢献等の活動も重要視されている．そのため，積極的に地元地域に貢献する取り組みを行う大学や他地域との交流活動を行う大学，大学キャンパスや一部の大学施設を一般開放する大学が増加しつつある．

また，住民同士のつながりや地域コミュニティが徐々に希薄化したりと地域コミュニティが抱える課題は多く存在する．そのような中で大学と地域の連携を行うことは，大学にも地域にもメリットであり地域コミュニティが抱える課題の解決にもつながると考えられる．

そこで本研究では，一般開放している大学施設を対象に，地域にどのように開いているのかを空間的に分析し，今後の大学と地域コミュニティ形成における交流空間のあり方を探ることを目的とする．

## ２．調査概要

まず『新建築データ』の「大学・各種学校」で出てきた全データを抽出した．次に，文章中から交流空間の有無を調査し，一般開放している交流空間を設けている国内の大学を抽出した．一般開放している対象の施設・キャンパス（以下，対象施設）の位置・特性を図面等で分析考察した．調査概要を Table 1 に示す．

Table 1　Survey overview

| 『新建築データ』大学・各種学校の概要調査 | | 一般開放している交流空間を設けている大学の調査 | |
|---|---|---|---|
| 調査資料 | 『新建築データ』 | 調査資料 | 『新建築データ』,Googleマップ,各大学のホームページ |
| 調査対象 | 2005年2月～2020年6月の間において，『新建築データ』の中で建築用途が「大学・各種学校」に分類されている全データ（178件） | 調査対象 | 一般開放している交流空間を設けている国内の大学42件（サテライトキャンパス2件は調査対象外とし，重複している対象施設は最新の記事を調査対象とする） |
| 調査項目 | 大学名, キャンパス・施設名, 発行年数, 交流空間の有無 | 調査項目 | 図面分析, 対象施設の建物用途, 最も近い最寄駅からの距離, 用途地域 |

## ３．大学キャンパスと対象施設

１）大学キャンパスと対象施設の関係性

大学キャンパスと対象施設との関係性は Figure 1 の通りに分類した. まず, 開放型と閉鎖型で分けられ，閉鎖型では対象施設が設置されているエリアが正門や裏門などキャンパス入り口付近にある“キャンパスエッジパタン”と，対象施設が設置されているエリアがキャンパスの中心部や奥などキャンパス入り口から離れたところにある“キャンパス奥パタン”の２パタンに分けられた．

開放型では，塀がなく公的な道沿いに対象施設がそのまま建設されているものや，塀がなく基本的にどこからでもキャンパス内に入ることが出来るものであった．

分類の結果，閉鎖型の“キャンパスエッジパタン”と開放型は公的な道から対象施設の距離が短く立ち寄りやすいと考察できる．

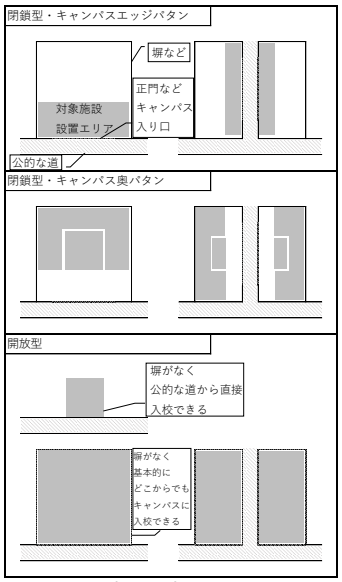


Figure 1　Classification of university campus and target facilities

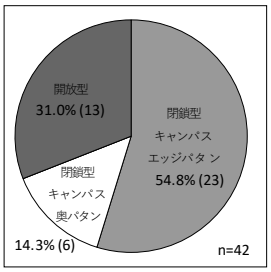


Figure 2　Classification rate

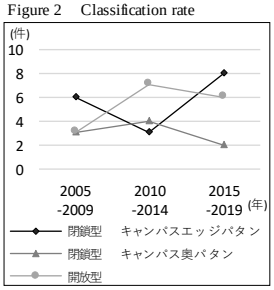


Figure 3　Classification and age trends

１：日大理工・学部・まち　２：日大理工・教員・まち

２）分類の傾向

対象施設を持つ大学では閉鎖型の“キャンパスエッジパタン”の割合が最も多く，次に開放型，閉鎖型の“キャンパス奥パタン”と続き，閉鎖型の“キャンパスエッジパタン”が半数以上を占めている(Figure 2). Figure 3 は２００５年から２０１９年までを５年スパンに分けて分類の傾向をみたものであり, 閉鎖型の“キャンパスエッジパタン”と開放型は増加傾向にあり，閉鎖型の“キャンパス奥パタン”で対象施設を設置する大学は少なくなっていることがわかる.

上記の結果から，大学は社会貢献等の活動が重要視されているという時代背景と共に，地域に開いたキャンパスを実現するために地域住民等の外部者が立ち寄りやすいキャンパスづくりが行われていると考察できる.

３）対象施設の建物用途の傾向

対象施設の建物用途を「講義・研究施設，講堂・ホール，広場，カフェ・レストラン，図書館，ギャラリー，屋外通路，スポーツ施設，その他」に分類し，キャンパス内に複数の対象施設を設けている大学もあるため複数回答とした(Figure 4). その結果，講義・研究施設が最も多く，講堂・ホール，広場と続いた．このことから，多くの学生が利用している施設や施設の一部を一般開放する大学が多いことがわかる.

その他では「工房，畑場」といったその大学特有の空間を一般開放するケースもみられた.

## ４．都市要素と対象施設

駅や都市計画区域等の都市要素と対象施設との関係性を見出すことで，対象施設を含めた大学キャンパスの都市の中の位置づけを把握する.

１）最寄り駅からの距離について

対象施設を含めた大学キャンパスが最も近い最寄り駅から２㎞以内のものを“徒歩圏内”，２㎞より遠いものを“徒歩圏外”とし距離と分類ごとの傾向をみる. Figure 5 より対象施設を持つ大学は比較的に徒歩圏内にあるという傾向がみられた.

Figure 6 からは, 徒歩圏内にあるものは閉鎖型の“キャンパスエッジパタン”と開放型が多いことから，地域住民だけではなく遠方からの外部者にも対応したキャンパスづくりになっていることが考察できる.

２）都市計画区域について

市街化区域・市街化調整区域・非線引き区域（白地地域２件，用途地域がかかっている地域１件）の３区域と分類ごとの傾向をみる. Figure 7 より対象施設を持つ大学は比較的に市街化区域にあるという傾向がみられた.

Figure 8 からは，市街化区域では閉鎖型の“キャンパスエッジパタン”と開放型が多く，全体(Figure 8)や Figure 6 の徒歩圏内と非常に近い傾向がみられた. これは，市街化区域では比較的交通手段が整っていることが大きな要因ではないかと考えられる.

閉鎖型の“キャンパスエッジパタン”はどのような地域にも対応できる特性があると考察できる．また，開放型は比較的交通手段の整っている市街化区域につくられる傾向があると考察できる.

## ５．まとめ

本研究では, 対象施設と年代や都市要素等の関係性をみることで，対象施設の分類ごとの傾向を見出すことが出来た. また, 対象施設と都市要素との関係性から，周辺環境と対象施設の特性が明らかになり，対象施設は利用しやすい位置，立地に設けている大学が多い傾向にあることを明らかにした.

更に交流空間のあり方を探るためには, 利用実態や利用者の制限等について把握する必要である.

## ６．参考文献

[1] 水野　裕介・安森　亮雄・松浦　達也：「“塀のない大学キャンパス”における開放領域の構成に関する研究」，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.77-78，2017

[2] 西村 晃三・坂井 猛・鶴崎 直樹・趙 世晨：「大学キャンパスの学外開放の実態と都市への貢献性に関する研究」，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.485-486，2010.

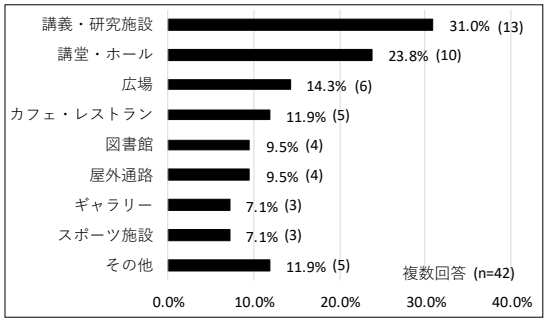


Figure 4　Percentage of facility use

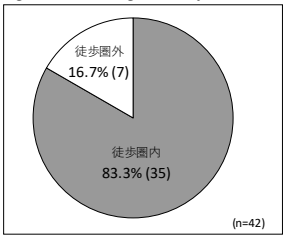


Figure 5　Percentage of walking distance and out of walking distance

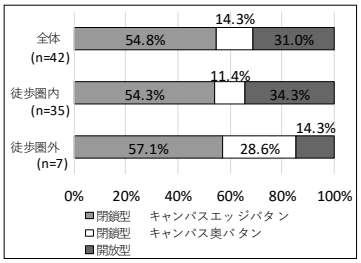


Figure 6　Relationship with urban facilities

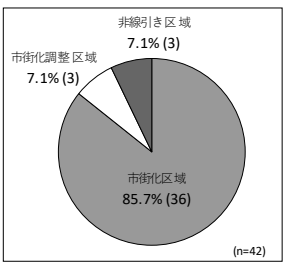


Figure 7　Percentage of city planning area

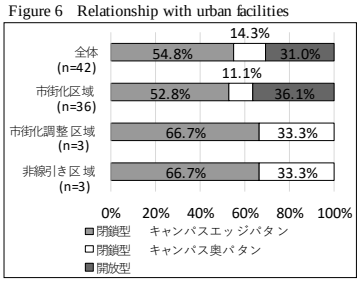


Figure 8　Relationship with restricted zone